

スクールホットライン

オアシス運動

from 新栄小学校

本校では、児童会活動として「オアシス運動」を行っています。

①は、「おはよう」の「オ」です。登校した児童から、校門に並んであいさつ運動をしました。毎朝長蛇の列ができ、元気な「おはよう」の音が響きました。

②は、「ありがとう」の「ア」です。「ありがとうカード」に、学校で見つけた「ありがとう」を記入しました。六日間で千五百枚以上のカードが集まりました。掲示後、「ありがとうカード」を渡し、感謝の気持ちを伝えました。もらった児童はとても嬉しそうな表情を浮かべ、お互いが自然に「ありがとう」と笑顔になりました。

③は、「クリーン奉仕」の「シ」です。朝放課にボランティアを募り、校庭の草取りを行いました。初日の六十名ほどから参加者がどんどん増え、六日目には百名を超える児童が参加してくれました。草でいっぱいになったゴミ袋を抱えた児童の顔には、充実感があふれていました。

④は、「スーパードンパチ」の「ス」です。友達の良いところや紹介したいところを見つけて、ミカンの形をした「スー

パー新栄小カード」に書きました。みんなが見つけた「すごい」がたくさん集まり、昇降口に作られたミカンの木が、「スパー新栄小」の実でいっぱいになりました。今後も児童会活動を通して、学校をよりよくしようとする心や互いに認め合う思いやりの心の育成に取り組んでいきたいと考えています。



史料から 豊山 ひもとく

第④回

今回は、民具資料から「繭かき機」、文書資料から「青塚古墳標識補助金通知」をご紹介します。

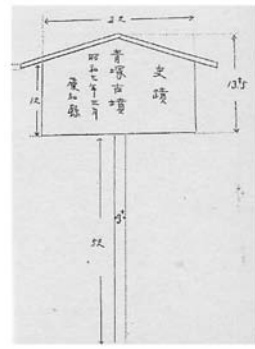
▽繭かき機
大正初期頃から昭和十五年頃（豊山町文化財調査委員会『豊山の民具』）に盛んだったのが養蚕です。その養蚕の道具、大正時代に普及したのが箱状の繭かき機です。出荷用のきれいな繭にするため、取っ手を回しながら繭を送り、棒にハガ（繭の外についている細い糸くず）を巻き取っていくのに使われました。巻き取られたハガは、真綿等に使われました。郷土資料室には、旧式のものと同金属主体の新しいものがあります。



繭かき機は、「毛羽取機」と呼ぶのが一般的ですが、本町では繭かき機と呼ばれていました。また、小牧市や旧師勝町の資料では、「はがとり機」と

記されています。
〈参考〉『小牧の文化財第十三集』、豊山町文化財研究会『郷土文集第三集』『書窓 平成二十五年六月号』より
▽青塚古墳標識補助金通知

昭和七年三月三日付けの文書です。発行は社兵（あるいは社岳）四三五号とあり、愛知県のどこかの部署と思われるです。



内容は、「県内史蹟名勝天然記念物顕彰のための標識設置に関する補助金の対象に青塚古墳が該当するから、申請されたい。標識は一基十五円で、補助金は二分の一（筆者要約）」というものです。豊山町史には、青塚古墳について「前方後円墳である。（中略）今から千五百年以上の昔に作られた大古墳（中略）、わずかに後円部分が残っているにすぎない」と記されています。
この地については、「青塚砦」と呼ばれ、小牧・長久手の合戦時の戦地であったとの伝承もありましたが、現在、それは犬山市の青塚古墳であるとされています。
〈参考〉岡本真一『豊山村村史』『書窓 平成二十四年十一月号』より